



れんけい だより



第69回 地域医療勉強会

8月20日・21日、第69回地域医療勉強会を開催しました。今回は『高齢者のがん治療について』というタイトルでがん化学療法看護認定看護師の山本香織看護係長に講義をしてもらいました。講義を始める前に“自身が80歳だと想定して、がんと診断されたら…手術や抗がん剤治療を受けますか？”と参加者に投げかけをされました。

「自分の生命のために治療をするというより、むしろ家族のために治療をしたい。」という回答が聞かれました。がんによって起こりうる身体機能、認知機能、社会的変化について話され、その中でも治療を継続していくために治療と就労の両立支援や、治療方針が変わるタイミングで意思決定支援についても多職種で情報共有をしながらサポートしていくことが重要であると話されました。そして抗がん剤の曝露に関して、目に見えないため基本的な感染対策してもらいたい、と話されました。

参加者のアンケートでは「自分の人生を考える上でも参考になった。」「ACPや人生会議を事前からおこなうことの大切さを改めて感じた。」という感想をいただきました。今回の学びを現場で生かしていただければと思います。ご参加をいただきましてありがとうございました。



第22回地域連携交流会に参加して

第二小児科部長 藤 脇 建 久

令和7年8月7日にホテル一畑にて第22回松江赤十字病院地域連携交流会が松江市医師会との共催で開催されました。松江市医師会との共催の地域連携交流会は3回目となりました。参加者は、院外から60人、院内から62人と多数の参加をいただきました。冒頭の大居院長からの挨拶では、当院においてロボット手術とドクターカーの運用が開始されたことが報告されました。研修会では当院第二泌尿器科の本田正史部長より、泌尿器科領域のロボット支援手術についての講演がありました。最先端の技術を提供したいという気概が伝わってくる講演でした。松江市医師会からは、須山浩美先生より松江市における心不全診療の新しい試みについてお話をいただきました。将来的な医療環境の変化を見据えたうえでの新たに開始された心不全診療における病診連携システム「ハートコラボ松江」の取り組みを聞き、地元で根ざしながら地域医療に前向きに取り組まれていることに大いに感銘を受けました。

研修会に続き懇親会が行われました。細田眞司松江市医師会会長の乾杯挨拶に始まり、森本紀彦島根県医師会会長からもご挨拶をいただきました。普段お話しする機会のない他科の先生と直接ゆっくりとお話しする機会を得、充実した懇親会でした。

地域医療のさらなる発展に向けて、地域の先生方との連携を深めることにより地域の問題に取り組んでゆくことの重要性を改めて認識いたしました。今後ともよろしくご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。



\\ よろしくお祈りします。 /

新任医師紹介




麻酔科 8/1 付

きのした ゆかり
木下 裕花利

島根大学たすきがけプログラムで1年京都の救急病院に勤めておりました。急性期医療の魅力に引きこまれ、麻酔科医として働くこと2年。まだまだ勉強の足りないことばかりですが医療の面白さも感じて楽しい日々です。

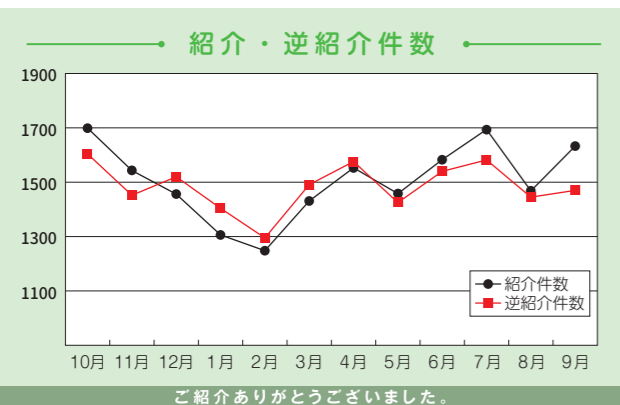
退職者



● 令和7年7月31日付
麻酔科医師 若山和明

● 令和7年9月30日付
血液内科医師 吾郷浩厚

● 令和7年10月4日付
第一形成外科副部長 榊原倫子



松江赤十字病院 地域医療連携課
〒690-8506 松江市母衣町200番地
TEL 0852-32-7813 FAX 0852-27-9261

第8回 雲南圏域

地域医療従事者 スキルアップセミナー



腎臓内科部長
花田 健

テーマ「腎代替療法選択」

腎臓病は生活習慣病や加齢性変化などの要素から治療を尽くしたとしても一定数は末期腎不全に至ります。末期腎不全となった際に腎臓の代わりとなる治療法が“腎代替療法”です。腎代替療法には血液透析・腹膜透析・腎移植があり、それぞれ異なる特徴を持ちます。血液透析は多くの医療機関で治療が可能であること、通院さえすれば治療を受けられるという安心感がある一方、月13回という頻回通院が負担となります。腹膜透析は月1回の通院で済みますが、在宅医療であり精神的負担を感じる患者が多いようです。腎移植は生命予後に優れますが、献腎移植では約15年という待機期間、生体腎移植では腎提供者の身体的負担が生じます。どの腎代替療法も生活への影響は大きく患者だけでは決めにくいので、医療者側の専門知識と患者側の価値観をもとに意見交換を行いながら意思決定する必要があります。我々は腎代替療法選択外来を開設し、末期腎不全が不可避な患者に対して腎代替療法についての意思決定支援を積極的に行ってきました。腎代替療法選択外来では腎臓病療養指導士を有する看護師が中心となり患者と意見交換を行います。現在では腎代替療法が必要になる患者のほとんどがこの腎代替療法選択外来を経たうえ選択に至ります。予後と社会性を重視する若年層では腎移植、在宅医療重視の高齢者では腹膜透析が選択される傾向にあります。この取り組みの結果から多様な選択結果となっており、患者ニーズに応えられているものと自負しています。他の医療機関でも参考になればと考え“腎代替療法”をスキルアップセミナーのテーマといたしました。当日は多くの医療者に参加していただき、今後の励みとなりました。



第7回 安来圏域

地域医療従事者 スキルアップセミナー



糖尿病・内分泌内科
金築 絵美子

テーマ「みんなで支える糖尿病ケア」

先日、安来市立病院で開催された地域医療従事者スキルアップセミナーにおいて、「糖尿病診療での心がけ」というテーマでお話しする機会をいただきました。対象は医師や看護師、管理栄養士をはじめとする医療スタッフの方々と、私自身にとっても大変貴重な経験となりました。

講演では、日常診療で大切にしている三つの視点についてお伝えしました。第一に「数値の背後にある患者さんの生活をみること」、第二に「継続できる治療と一緒に考えること」、第三に「多職種で支えること」です。血糖やHbA1cの数値は治療の指標として重要ですが、患者さんの生活背景や気持ちを理解しながら、無理のない目標設定を行うことが結果として長期的な安定につながります。

また、当日は看護師や管理栄養士の先生方からも現場での工夫や支援の具体例が紹介され、活発な意見交換が行われました。多職種それぞれの専門性が補い合うことで、患者さん中心の医療が実現することを改めて感じました。



私はまだ医師として駆け出しの立場ですが、こうした機会を通じて、地域全体で糖尿病を支える体制づくりの大切さを実感しています。今後は開業医の先生方とも連携を深め、早期発見・予防啓発にも力を入れていきたいと考えています。地域の一員として、患者さんの生活に寄り添う診療を続けてまいります。

乳がん地域連携パス勉強会



9月30日に、令和7年度 乳がん地域連携パス勉強会を開催しました。今年度は『乳がん診療～最新の動向について～』とテーマを掲げて、3名の講師が講義をしました。

今年で連携パス運用開始から14年が経過し、連携パスの現状報告と課題について、患者総合支援センター仲舎看護師が報告しました。連携患者さんの思いを受け止め、治療の継続とよりよい連携ができるよう、コーディネーターとしてサポートをしていきたいという熱意を話されました。

次に、2024年にリンパ浮腫診療ガイドラインの変更を踏まえた当院の対応について、乳腺外科大谷医師が連携してくださっている医療者に向けてお話をされました。最新の知見に基づいて安全な診療と対応をしていくことが重要であり、連携しているメリットを活かして不明な点があればいつでも問い合わせをしてほしいというメッセージを伝えられました。そして、近年「アピランスケア」という言葉が徐々に定着してきましたが、がん治療によって起こる外見の変化は患者さんのQOLの低下に繋がりがねない、そのため自分らしさと社会の中で今まで通りに過ごすことができるよう多職種でサポートをしていくことが大切であると乳腺外科村田医師より、お話されました。

当勉強会は毎年テーマを決めて院内外からの講師による勉強会をおこなっています。5年前よりWEBでの同時開催もしていますので、次回開催の際は是非ご参加いただきますようお願い申し上げます。

